

中高一貫だより

<編集・発行>
えりも地区連携型
中高一貫教育
推進委員会事務局

国公立大学3名進学！ 成果が出ています



えりも地区連携型中高一貫教育推進委員長
(北海道えりも高等学校長)
三浦 眞 児

えりも町の皆様には、日頃より、中高一貫教育にご支援をいただき厚くお礼申し上げます。「えりも地区連携型中高一貫教育」は平成十六年度にスタートし、今年度、十三年目を迎えました。

これまで、中高の六年間を見通した学習指導・進路指導・生徒指導に計画的・継続的に取り組む形で学校の活性化を図ってまいりました。

成果が出ています。平成28年3月に高校を卒業した40名のうち3名が室蘭工大等の国公立大学進学を達成！えりも町職員、様似町職員などの公務員が3名、えりも漁組やトヨタ自動車など民間就職内定率は100%でした。

高校では1学年に2クラスの体制を維持しており、生徒の多様な進路希望に細かく対応した選択科目を設定し、放課後や長期休業中の講習を加えながら生徒の進路実現をめざしています。

親元で落ち着いた生活を送りながら、自分の夢をかなえることができるという中高一貫教育の成果が出てきています。

今年度も、えりもの地で学ぶ子供たち一人一人の健やかな成長や夢の実現に向けて、両校の教職員一同力を尽くし、取組の充実を図ってまいりますので、皆様のご支援を重ねてお願い申し上げます。

学力向上に向けた各教科の取組

えりも中学校とえりも高校間で行われている中高一貫教育推進事業では、「えりもの子」達の学力向上を軸として、学校間の授業交流を柱とする種々の取組を行っております。十三年目を迎える今年度はさらに各教科での取組を充実させ、「えりもの子」達の学力向上を図ってまいります。紙面の都合で一部とはなりますが、各教科部会での取組の概要を紹介いたします。

【国語部会】今年度は、中高一貫漢字学習が7年目を迎えます。これまでの6年間の取り組みをふまえ、中学校では新たなテキストを用いた漢字学習を行います。また、今年度も高校教員による乗り入れ授業を実施し、中学生の学力テストや高校入試対策を行う予定です。(山田)

【理科部会】今年度も長期休業後の課題テスト(高校)や、授業中での小テスト(中学)で基礎的な計算力、化学式などの定着をはかります。また、環境教育「百人浜に学ぶ」を通して、えりもの自然と環境保護について学びます。中高教員によるチームティーチングの授業も行います。(大竹)

【数学部会】昨年度に引き続き、高校教員が中学校の授業を週2回担当します。今年度は中1生に対し、チームティーチングを通して数学力向上を図ります。また、高校の学習への接続を意識し、中3生に対し履修内容のまとめ学習を行います。苦手分野の分析と、その克服を図ります。(前川)

【保健体育部会】中高生の体力向上を狙いとして、中1から高3まで新体力テストを実施しています。新体力テストの結果を分析し、各学年の体力課題を明確にし、体力向上に取り組めます。(田畑)

【社会科・地歴公民科部会】今年度も年3回のコンクールを実施し、基礎学力及び学習意欲の向上を図ります。また、環境教育「百人浜に学ぶ」を通し、環境問題に関する意識向上を目指します。(伊藤(麻))

【英語部会】今年度も高校教員が中学校の授業を週2時間担当し、チームティーチングや少人数指導などを通じて、基礎力の向上を図ります。また、年3回実施する中高合同英検を通して、英語学習への意欲喚起を図ります。(芳賀)

えりも中学校における

中高一貫教育について

中高一貫教育として、今年度のえりも中学校で取り組む内容について、お知らせします。

1 高校教員によるTT授業

(英語科・数学科・体育科)

えりも中学校では、中高一貫教育の目玉として、えりも高校の数学科と英語科の先生にそれぞれ週に2時間ずつTTとして指導に取り組んでいただいています。

このように高校の先生による授業の乗り入れを実施して3年目となりますが、入試結果が向上するなど大きな成果が見られるようになりました。

昨年度までは3年生での実施でしたが、今年度からは基礎学力の定着を図るため、1年生で取り組んでいます。

また、体育科においては高校の体育科の先生の協力により、体力テストを実施しています。中高6年間での体力向上をめざすため、本校の生徒の体力の傾向を十分に理解してもらう機会にもなっています。

この他にも3年生の3学期に実施する「つなぎ学習」では、各教科の先生に來校していただき、高校入学後に学習面などでの課題を抱えないために、中学校の教員とともに授業を実施する予定です。

このように高校教員の乗入れによって、本校生徒の学力の定着をめざした取組を実施する予定です。

2 環境フィールド学習

(1) 百人浜に学ぶ講演会

6月13日(月)5・6時間目に日高南部森林管理署えりも治山事業所治山技術官である佐々木健司氏を講師としてお招きし、「百人浜に学ぶ講演会」を開催いたしました。

かつて、「えりも砂漠」と呼ばれていた百人

浜周辺がどのような過程を経て、現在の緑あふれる地域に改良されたのかについて、数多くの写真を交えながら、詳しく説明していただきました。

えりもの未来を担う本校の生徒に緑化事業の意義や大切さを学んでほしいと毎年企画しているこの学習。今年度も生徒にとって多くのことを学べる素晴らしい機会となりました。

(2) 百人浜に学ぶフィールド学習A

6月21日(火)、緑化事業の大切さを学んだ2年生51名が20年後の緑豊かなえりもをめざし、百人浜で植樹を行いました。

前半はえりも町林業総合センターでの植樹をする上で土台となる「カミネッコン」の製作、後半は百人浜へ行き、「カミネッコン」にシラカバ、カツラなどの苗木を入れ、土に埋める作業を行いました。

美術の授業で制作した名前入りの金属のプレートを1本1本の苗木につけ、植樹は終了。20年後、今回植えた木々がこの街を緑豊かにすることを期待しています。



【苗木を植える様子】

上記の他にも、保護者を対象として行われる「えりも高校学校説明会」や3年生を対象として実施する「職業別ガイダンス」と「進路講話」、また、2年生が対象の「1日体験入学」など、生徒のよりよい成長のために中高一貫教育の良さを十分に生かした教育活動を進めていきます。